

鎌倉のおすすめ「勝烈庵」



昨年10月に入社した井上と申します。ニュースレター初登場となります。よろしくお願いいたします。

鎌倉・鶴岡八幡宮へ初詣に行きました。参拝後の楽しみは「勝烈庵」という、とんかつ屋さんのランチです。(※本店は横浜・馬車道にあります。) この日は勝烈定食を頂き、食後に正月限定のくじを引かせてもらったところ、3等の「合格箸」というお箸が当たりました！今年は何か新しい試験にでも挑戦しろというお告げかもしれませんね。(井上)

令和8年4月分から子ども・子育て支援金の徴収が始まります

国の「こども未来戦略『加速化プラン』」で定められた子育て支援の拡充にかかる費用に充てるため、新しく創設され導入されるものです。高齢者を含むすべての世代の人が、公的医療保険の保険料とあわせて徴収され、会社員は令和8年4月分から徴収が始まります。

2025年4月からの雇用保険の「出生後休業支援給付」「育児時短就業給付」は、子ども・子育て支援金を活用した子育て支援策として、既に実施されています。また、**児童手当の拡充や親の就労の有無にかかわらず保育園に通いやすくする「こども誰でも通園制度」の給付**なども、同様です。

◆負担額はどれくらい？

子ども家庭庁が12月26日に公表した年収別推計によれば、協会けんぽ・組合健保の被保険者一人当たりの月額負担は月額で数百円となっています。(例:400万円:384円、600万円:575円など)

◆給与計算への影響は？

令和8年4月分の保険料から徴収が始まりますので、あらかじめ従業員に周知しておくといでしょう。

【こども家庭庁「子ども・子育て支援金制度について」】

<https://www.cfa.go.jp/policies/kodomokosodateshienkinseido>

【厚生労働省「令和6年雇用保険制度の改正内容について(子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律)」】

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_40723.html

無期転換ルール等の考え方と裁判例が公表されています～厚生労働省

有期契約労働者の無期転換前の雇止め等や**多様な正社員等の労働契約関係**については、実務においてトラブルが多いところです。

厚生労働省はこのようなトラブル防止を目的に、無期転換ルール、多様な正社員等の労働契約関係の明確化に関

する裁判例や労働関係法令等の考え方等を整理した資料を取りまとめて公表しています。資料では、例えば次のような項目について、裁判例や考え方が示されています。

(無期転換ルール)

- ・ 無期転換申込権発生前に新たに(一方的に)更新上限を設定して上限を理由に雇止め
- ・ 当初の契約締結時から更新上限を設定して無期転換申込権発生前に雇止め
- ・ 再雇用を約束した上で雇止めをし、クーリング期間経過後に再雇用
- ・ 細切れな定年を設定し、無期転換後、数年で定年退職
- ・ 無期転換申込みを行ったこと等を理由とする不利益取扱い

(多様な正社員)

- ・ 労働条件の変更
- ・ 限定合意と配転命令
- ・ 勤務地限定や高度な専門性を伴わない職務限定と整理解雇法理の判断の傾向
- ・ 能力不足解雇

資料で掲載されている裁判例はいずれも個別の裁判例であり、**事案によって異なる判断となる可能性**があります。が、押さえておくべき論点が多く盛り込まれていますので、実務の参考になる点も多いと言えます。

【「無期転換ルール及び多様な正社員等の労働契約関係の明確化に関する考え方と裁判例」】

<https://www.mhlw.go.jp/content/11200000/001613904.pdf>

自社の有給取得率は？有給休暇取得率が66.9%で過去最高～「就労条件総合調査」

厚生労働省の「令和7(2025)年就労条件総合調査」によれば、令和6年の労働者1人当たりの**年次有給休暇取得率は66.9%**、**平均取得日数は12.1日**でした。近年は過去最高を更新し続けています。

中小企業では、業務量の偏りや代替要員の確保が難しいことなどから、**年休取得が進みにくい傾向**があります。しかし、年休取得促進は、従業員の健康確保・離職防止・生産性向上に直結する重要な取り組みです。また採用の観点でも、「きちんと休める会社か」は若年層を中心に関心の高い項目です。

休みやすい職場環境の整備は一朝一夕でできるものではなく、「休みがとりやすい会社にする」というトップの覚悟と、その目標に向けた仕組みづくりが必要になります。仕事はチームで行うという認識のもと、特定の担当者しかできない業務を減らすことや、情報共有による属人化防止が実践のカギです。また、業務量の総量に対する人員配置の問題なども関係します。取得状況の可視化なども有効です。

【厚生労働省「令和7(2025)年就労条件総合調査 結果の概況」】

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/jikan/syurou/25/index.html>

『はじめる力』安野 貴博(著)

ITエンジニアであり、チームみらいの代表でもある安野氏の書籍。個々人がそれぞれの立場で合理的な判断をした結果、リスクが取れない、チャレンジがしにくい環境になってしまっている、という意見に納得。

始め方のポイントとして、①解像度の高い未来をイメージする、②ゴールまでの戦略とストーリーを考える、③スピードと心理的安全性を大事にする現状維持とありましたが、これが全部難しい。とはいえ、AIがビジネス、社会にどんどん広がっていくこれからの世の中、新しいことを始める、変わっていくことは最重要事項になるはず。何はともあれ、小さくはじめる。打席に立つ。これがやはりポイントですね。

